



(参考仮訳)

プレスリリース No. 11/275
即時解禁
2011年7月12日

国際通貨基金 (IMF)
米国・ワシントン DC

クリスティーヌ・ラガルド IMF 専務理事、 次期筆頭副専務理事にデビット・リプトン氏・副専務理事に朱民氏の起用を検討

国際通貨基金 (IMF) のクリスティーヌ・ラガルド専務理事は、次期筆頭副専務理事に、デビット・リプトン氏を任命する方向で検討することを明らかにした。リプトン氏は、2011年8月31日に任期を終えるジョン・リプスキー氏の任を引き継ぐことになる (プレスリリース No. 11/173)。またラガルド氏は、朱民・現専務理事特別顧問の、副専務理事起用の検討も発表した。

リプトン氏は、2011年7月26日より専務理事特別顧問としての職務を開始、その後2011年9月1日付けで筆頭副専務理事に就任する。一方リプスキー氏については、2011年9月1日から11月末まで専務理事特別顧問の職を務める予定であることが、既に発表されている。

リプトン氏の選出を発表するにあたりラガルド氏は「次期筆頭副専務理事として、デビット・リプトン氏の起用を検討することになったことを喜ばしく思う。IMFの政策と様々なプロセスに関する優れた知識を有するリプトン氏は、世界水準の専門知識、公共部門での政策策定や民間部門での経験に加え経済危機管理におけるその実績を基に、IMFに、政策形成過程における多大な経験のみならず、卓越したコミュニケーション及び交渉スキルをもたらすだろう」と述べた。

米国籍のリプトン氏は現在、米国大統領の特別補佐官、並びに米国家経済会議及びホワイトハウス国家安全保障会議の局長 (国際経済問題担当) を務める。前職は、シティグループのグローバル・カントリーリスク・マネジメントのマネージング・ディレクター兼ヘッド。同職以前は、ムーア・キャピタル・マネジメントのムーア・キャピタル・ストラテジー・グループのマネージング・ディレクターを務める。また、1993年から1998年まで、米国財務省にて国際問題担当次官をはじめとしたシニアポジションを歴任。同職に就く前は、移行期にあったポーランド、ロシア及びスロベニア各政府に経済問題についてアドバイスをを行う。ハーバード大学にて経済学修士号及び博士号を取得。1982年に卒業後、IMFに8年間勤務。新興市場及び貧困国の経済安定化に関する問題を担当。

一方、朱民氏は、2010年に中国人民銀行より専務理事特別顧問に就任（プレスリリース No. 10/58）。ラガルド専務理事は、増員される副専務理事に朱民氏の起用を検討しており、同氏は2011年7月26日より他の3名の副専務理事とともに専務理事の補佐にあたることになる。

ラガルド専務理事は「政府、国際政策の形成及び金融市場の分野での多大な経験を有する朱民氏は、優れた管理及びコミュニケーションスキルを誇るのみならず、IMFという組織について深く理解している。朱民氏の助言に期待する」と述べた。

「副専務理事として、朱民氏は、私をはじめとする他のマネジメントチームのメンバーと協力し、我々の加盟国が今後直面する様々な課題への対応に取り組むことになる。また、IMFがアジアや新興市場国全般に対する理解を深める上で重要な役割を担うことになろう。朱民、デビット・リプトン両氏、そしてチームの他のメンバーと密接に協力していく所存だ」

中国人民銀行副総裁として、朱民氏は、国際問題、政策研究、信用に関する情報を担当。中国中央銀行以前は、中国銀行グループエグゼクティブ・バイス・プレジデントとして、融資、財務、リスク管理、内部統制、法律及びコンプライアンス、戦略及び研究といった、様々な分野で指揮を執る。世界銀行に6年間勤め、ジョンズ・ホプキンス大学及び復旦大学で経済学の講義を行った経験を有する。

専務理事は、筆頭副専務理事及び副専務理事を選出し任命するが、任命には理事会の承認が必要である。その際理事会は慣例に従い、理事会の観点に立ちこれら職務に必要な資質について協議を行う。